



スーパーストロー作りにも挑戦する浜野さん。

科学の不思議を体験して 科学の祭典に1,800人

11月28日、産学官連携で開催された青少年のための科学の祭典2010徳島大会に、約1,800人の親子連れが詰め掛け、さまざまな科学実験・体験を楽しみました。

会場の科学センターには、高専ロボコンを体験しようなど31のコーナーが設けられ、参加者は担当者の説明に熱心に耳を傾けて、科学のメカニズムを学んでいました。「スーパーストローが手で作れるのがとても不思議でした。」と話す山口町の浜野未望さん(小3)。さっそく、出来上がったばかりのボールの跳ね具合を、友人の大西佳奈さん(小3)と鈴江花菜さん(小3)と一緒に確かめ合っていました。

島の安全は僕たち私たちが守る

少子高齢化に伴う地域防災力の低下を防ごうと、11月19日、国のモデル事業による地域少年少女消防教室が伊島で行われ、少年消防隊11人と婦人防火クラブの皆さんが防災訓練を行いました。

前島では県消防防災ヘリの訓練の様子を見学。学校ではホースや消火器を使った初期消火訓練などを行いました。「伊島では、昼夜を問わず大人が漁に出ることが多いため、自分たちでまちを守るという意識が大切です。」と中川消防団長の激励に、伊勢遥香さん(中3)は、「貴重な体験ができました。これからも訓練を続けていきたいです。」と応えていました。昭和46年に始まった少年消防活動は今年で40年目。島を守る住民の意識は世代を越えて受け継がれています。



防災ヘリ「うずしお」をバックに記念撮影する子どもたち。

親子でチャレンジ 第8回子どもフェスティバル

未来を夢見る子どもたちに、ものづくりなどの体験を通して豊かな人間性を育んでもらおうと、11月14日、阿南高専で第8回阿南市子どもフェスティバルが開催され、約2,600人の親子連れでにぎわいました。

産学官が連携して催す体験コーナーは毎年増え、どこも長い列ができていました。新野高校家庭クラブの「ミニクリスマスツリーを作る」に挑戦した見能林町の渡辺ひなさん(10歳)は、「きれいに作れました。テレビの上に飾ります。」と、満足そうな表情で一足早いクリスマスを楽しんでいました。



できあがったミニクリスマスツリーを手にとる渡辺さん。

ふるさと再発見！親子でまちを散策

普段、車でしか通らない道も歩いてみると意外といろいろな発見があるもの。親子で歩いてふるさとあなを再発見してもらおうと、11月27日、環境ウォークラリーが開催され、85人の親子が見能林の街道を散策しました。

公民館を拠点に約3kmのコースが設定され、参加者はコマ図を頼りに約1時間30分かけて周回。途中、10カ所のチェックポイントや観察ゾーンなどが設けられ、親子で順路を確認しながら問題に答えたりしていました。親子3人で参加していた羽ノ浦町の助岡 篤さんは、「いつも車でしか通らない道も歩いてみると新鮮な気持ちになります。細い路地など新しい発見もありました。」と話していました。



声の大きさをポイントをかせくボーナスポイントで説明を受ける助岡ファミリー。



世界の壁にスパイクを打ち込む大野体協の田村選手。

あなんのママさん 元オリンピック選手に挑戦

バレーボールを通じて健全な家庭の育成と競技力の向上を図ると、宝くじスポーツフェアママさんバレーボールinあななが11月21日、スポーツ総合センターで開催されました。元オリンピック選手など往年のプレーを間近で見れるとあって、会場には約1,200人の観客が詰め掛けました。

ママさんチームとの親善試合では、レベルの違いを思い知らされましたが、時々決まるママさんチームのスパイクやブロックに大きな歓声と拍手が送られました。

見事スパイクを決めて敢闘賞を受賞したひまわりクラブ（選抜チーム）の林 美奈さん（宝田町・38歳）は、「いい勉強になりました。これからもけがをしないよう長くバレーを続けていきたい。」と話していました。

阿南共栄病院 産婦人科病棟を全面改修

6月から整備を進めてきた阿南共栄病院産婦人科病棟改修工事が11月末で完成し、装いも新たに妊産婦の受け入れを始めています。

今回改修したのは病室、分娩室、浴室など病棟のほぼ全面。ベッドやロッカーなどの備品を新調し、照明機器も交換。壁紙を張り替えるなど、清潔感溢れる病棟にリフォームされました。総工費は約5,100万円。市は2,500万円を補助します。

当該病院は市内で唯一のお産施設で、市の総出生数の約5割を受け入れています。今回の改修工事を機に、さらに利用者のニーズに添えていきたいと病院関係者は話しています。



改修された個室にはトイレ、洗面台、冷蔵庫が完備されている。